

第3回キャリアイベント実施報告

——公務員のリアルを聴こう——

堀籠 崇, 稲垣 実優, 岡本 留奈, 山岸 陽華, 米澤 奈菜 (新潟大学)

1 趣旨とプログラムの構成¹

1) 趣旨

学生たちが主体的に自らのキャリアを深く考えるきっかけを作りだそうという「学生主体キャリアイベント(以下キャリアイベント)」も今回で3回目を迎えた。過去2回のイベントが、自分たちの将来のキャリアーより具体的には、どのような職に関心があるのか、いかなる職に就きたいのか、働いていくイメージ等—について模索している状態にある学生たち主体で実施されたのに対し、今回のキャリアイベントは、「公務員」という職への志望が明確(言い換えれば、就職目標が明確)な学生たちを中心に実施・運営された。

本キャリアイベントの趣旨について、運営スタッフメンバーの学生たち(以下、学生メンバー)によって作成された告知用のチラシには、以下のように記されている。

公務員という職業に漠然とした関心はあるが具体的なイメージのもてない学生が、ゲストのお話や座談会を通し、自らのキャリアや課題について具体的に考えられる機会とする。

近年、公務員という職業に係る情報や深い知識を有しているわけでもなく、世間一般で語られるイメージに基づいて「なんとなく」志望している学生は少なくない。そうした学生においては、何を学べばよいのか、なんのために学ぶのかといった、学びのモチベーションがわからないままに、機械的に公務員講座や試験対策に取り組んでいる様子も見受けられる。本キャリアイベントは、そうした状況に一抹の不安を感じる学生メンバーが、公務員志望者およ

び、公務員の仕事と生活に関わる実際を知りたいと希望する他の学生とともに、公務員の「リアル」に触れ、その現実を理解し、今後の大学での学びに対するモチベーションにつなげることを狙って企画したものである。



図1 学生主体キャリアイベントチラシ
(新潟大学創生学部 2年 稲垣実優 制作)

¹ 本稿は、稲垣、岡本、山岸、米澤の4名の学生の記録メモをもとに、堀籠が整理・編集したものである。1節、3節はおもに堀籠の

単独執筆、2節は堀籠と4名の学生の共同執筆、4節は学生の単独執筆である。

2) プログラム

イベント当日のプログラムは以下のとおりである。

第3回キャリアイベント

「公務員のリアルを聴こう！」

○日時：2019年1月16日 10:15～11:45

場所：新潟大学総合教育研究棟 B棟 5F
多目的ルーム

○開会あいさつ

新潟大学創生学部 2年（運営スタッフ学生）
米澤 奈菜

○ゲスト紹介

観光・国際交流部 国際・広域観光課 主事
吉澤 裕太氏
人事委員会事務局 主査 相田 みゆ紀氏

○グループワーク（ゲスト囲んでの座談会）

ファシリテーター
新潟大学創生学部 2年（運営スタッフ学生）

岡本 留奈
山岸 陽華

○新潟市人事委員会からのご紹介

人事委員会事務局 目黒 勝氏

○開会あいさつ

新潟大学創生学部 教授 渡邊 洋子

冒頭に学生メンバーを代表して、司会の米澤が開会のあいさつを行った後、2名のゲストからの自己紹介として、これまでのご自身のキャリア、現在の勤務状況等について、20分ほどお話しいただいた。2名のゲストについては、学生メンバーによる事前の企画打ち合わせにおいて、自分たちのロールモデルとして想定されるような人物として、①入庁5年目くらいの男性職員（一般事務）および、②小学生くらいの子どものもつ女性職員（一般事務）を条件にリストアップし、新潟市人事委員会のご協力を得て、決定へと至ったものである。前者のゲストについて、学生たちは自分たちの直近の未来の姿を重ね合わせている。後者のゲストについては、就職して職業経験も経たのち、結婚・出産というような人生の転機をも経験した方ということで、学生たちにとって中長期的にみた人生の先輩、仕事と家庭を両立した社会人ロールモデルとしてイメージしている。

さて、ゲスト紹介の後、本イベントの参加者を2つのグループに分けて、ゲストを囲んでの座談会を行った。座談会は、前半と後半とに分けてゲ

ストをチェンジするような形式とし、参加者全員が2名のゲストと身近に触れ合える設定にした。参加者とゲストとのラフな感じの対話形式ですすめられたことから、2名のゲストにお聞きしたい公務員



図2 開会あいさつの様子

の「リアル」について率直で活発な質疑応答が交わされた。

ゲストのお2人からお聞きしたいことについては、企画段階より学生メンバーが事前に入念な検討を重ね、準備していた。それら質問項目は、下記のとおりである。もちろん、学生メンバーは、質問項目の事前準備のみに気をとられていたわけではなく、当日における参加者間の活発な議論の促進にも強く留意していたことは付言しておきたい。

座談会に際して準備した質問項目

【お2人から、一番お聞きしたいこと】

- ・ 学生時代の公務員像と実際になってみて違いはありましたか？
- ・ 公務員のメリットだと思うこと、デメリットと思うことは何ですか？
- ・ 自分は公務員に向いていると思っていますか？または思いながら志望しましたか？

【お2人から、次にお聞きしたいこと】

- ・ 大学生のうちにしておいた方が良いことは何ですか？
- ・ 仕事が大変な時の自分なりのリフレッシュ法は何ですか？
- ・ 公務員をされていて良かったと思う出来事は何ですか？

【お2人それぞれから、お聴きしたいこと】

《吉澤氏》

- ・ 部署を異動して慣れるまでは大変ですか？
大変な場合、勉強など何かしらの対処をしていますか？
- ・ 国際・広域観光課で一番やりがいがあると
感じることは何ですか？

《相田氏》

- ・ 男性でも育休をとっている人は身近にいま
すか？
- ・ お子さんにも公務員になってほしいと思
いますか？

【その他】

- ・ 自分に向いていないかと思う仕事をやる
時はどうしていますか？
- ・ プライベートと仕事の切り替え方は何かあ
りますか？
- ・ 試験勉強はどのくらいしましたか？
- ・ 自分のやりたいことをやれる環境ですか？

座談会ののち、新潟市人事委員会 目黒勝氏より、自治体行政についてのご紹介をしていただいた。そして最後に本キャリアイベントを後援した新潟大学キャリア創生研究会を代表して渡邊が閉会のあいさつをし、散会となった。

2 主な流れ

1) ゲスト紹介

2名のゲストによる自己紹介では、プロフィール、キャリア略歴（入庁に至るまでの学び、入庁から現在にいたるまでの配属先・業務経験）、これまでの自らのキャリアにまつわり、考えてきたことなどについてお話しいただいた。

まず、相田氏の自己紹介のお話の中では、学生たちは特に1日の生活の流れについて、関心を寄せていた様子であった。デスクワークを基本とした日々の業務と、そのなかでのワークライフバランス—具体的には育児のための「部分休業」（1時間早い退庁）—については、参加学生たちからのアンケート回答（稿を改めて記述）の中にも多くの記載が見られた点である。

次に吉澤氏の自己紹介は、事前に大学生の目線に合わせた内容のものを作成・準備いただいていた様



図3 ゲスト自己紹介の様子

で、大学時代の学び（ゼミにおける行政学、地方自治に関する研究、中国への留学の経緯など）や、就職先として公務員・市役所を選択した理由、就職までの準備についても丁寧にご説明いただいた。また、入庁後の業務経歴についても具体的な業務内容と、そこに至るまでに体得してきた様々なスキルとの関係性、業務へのモチベーションと魅力などについて、軽妙な語り口でお話しいただき、参加学生たちは、自分たちの抱いていた公務員の業務イメージとの間のギャップに驚きを隠せない様子であった。

2) グループワーク（ゲストを囲んでの座談会）

ゲストを囲んでの座談会は、参加学生を2つのグループに分けてローテーションする形で行われた。はじめに参加者について、相田氏を囲むグループ（これをAグループとする）と吉澤氏を囲むグループ（これをBグループとする）の2つのグループに分け、車座になってテーブルトークを行ったのち、ゲストをチェンジして、再びテーブルトークを行うという形式である。それぞれのグループで交わされた会話の記録を要約して以下に記す。

① Aグループの記録（記録者：岡本留奈）

《相田氏との質疑応答について》

Q1a 公務員のメリットとデメリットとは？

A1a メリットは、休暇制度がしっかりしている、育休が当たり前、協力的な雰囲気があること。デメリットは、いろいろな仕事があるため、人によって向き不向きがあること。

Q2a 自分は公務員に向いているか？

A2a 20年間働けているので向いているのかも？

- Q3a その職業に向いていると思って志望したのか？
- A3a そうではない。公務員1本では不安であったため、民間と併願。裁判所、国家公務員、市役所を検討。
- Q4a 男性でも育休を取得した方は身近にいるか？
- A4a いないが、聞いたことはある。1か月ほど取得する人が多い。3歳までは取っても良い。職場復帰後は、それほど変わりはないがシステム変更は大変だった。
- Q5a 異動の際の対処は？
- A5a マニュアルがあるが、自分で勉強する人もいる。2か月くらいは慣れず大変である。
- Q6a 試験勉強は何をすればよいか？
- A6a 問題集を解くこと。またいろいろな体験も重要だと思う。
- Q7a 女性が働きやすい職場か？
- A7a 若手公務員の勉強会も女性が多い。民間の友人は産休あたりで退職した人が多い。
- Q8a 子供に公務員になってほしいか？
- A8a 公務員以外でもよい。選択肢の一つだと思う。
- Q9a 新潟出身以外の人でも市の職員になっているのか？
- A9a 旦那さんの転勤で東京出身、中途採用の方がいる。

《吉澤氏との質疑応答について》

- Q1a 学生時代に抱いていた公務員像とのギャップは？
- A1a それほどない。皆良い人である。面白い人もたくさんいる。人を相手にする仕事だということを知ってほしい。



図4 座談会の様子①

- Q2a リフレッシュ方法は？
- A2a 仕事のための情報収集も兼ねた旅行や外食。
- Q3a 異動の際の対処は？
- A3a 自分で勉強する。1年目は慣れることで精いっぱい。2年目で考えて動けるようになり、3年目で応用、そして異動となる。前の所が懐かしい時もあるが、慣れることが大変だから忘れてしまう。
- Q4a 向いていない仕事についての対処は？
- A4a どうしても無理だったら変えてもらう。人には向き不向きがあり、自分はやや事務が苦手。個人的には福祉の仕事は大変だと思うが、そこで活躍している先輩もいる。
- Q5a 学生時代の学びについて？
- A5a 人気があまりないところに注目して、中国語を勉強した。中国語ができる人は少ない。今は観光課で生かしている。また色々な人と関わることが大切だと考えている。自分は学生時代のゼミを通じて人と交流する経験を積むことができた。
- Q6a 法学部で学ぶ意味について？
- A6a 法律の勉強に対してとっつきやすさはあるが、すべての法律を学んでいるわけではない。その他 仕事がイコール、リフレッシュであり、あまり切り替えてはいない。仕事楽しい。

② Bグループの記録（記録者：山岸陽華）

《相田氏との質疑応答について》

- Q1b 学生時代の公務員像と実際になってみて違いはあったか？
- A1b 窓口の仕事というイメージから、色々なところ



図5 座談会の様子②

と関わることができる仕事というイメージに変わった。

- Q2b 自分は公務員に向いていると思うか？または
そう思いながら志望したか？
- A2b 民間も考えたが、実際に公務員になって長く仕事
が続けられている。
- Q3b お子さんにも公務員になってほしいか？
- A3b 自分の夢を大切にしてほしい。働きやすさを考
えると公務員もお勧めしたい。
- Q4b 男性の育休について？
- A4b 新潟市でも男性で取得している人はいる。男性
でも育休が取れる環境である。期間は人それ
ぞれである。
- Q5b 学生のうちにやっておいた方がよいことは？
- A5b 海外に行くこと。仕事を始めると自由が利かな
くなるので行けるときに行っておいた方が良
い。そして、たくさん勉強すること。
- Q6b 女性目線で公務員の仕事は働きやすいか？
- A6b 部分休業がある。子供が小学校に上がる前まで、
男性女性両方とれる。30分単位で、その日そ
の日で取り消しもできる。自由な働き方があ
る。
- Q7b 民間へのあこがれは？
- A7b 市役所のことしか知らないが、民間ではもっと
視野を広げることができそうだと思う。

《吉澤氏との質疑応答について》

- Q1b 学生時代の公務員像と実際になってみて違い
はあったか？
- A1b 学生時代は事務の仕事という印象だった。公務
員になってみて「人の好い」方が多いという印
象を持った。経験者採用で公務員になった人

など、特殊な人もいるかもしれないが、仕事に
対する気持ちのベースは一緒だと思う。

- Q2b 公務員のメリットとデメリットは？
- A2b いろいろなことが経験でき、別の世界も知るこ
とができる。デメリットは人の目が厳しいこ
と。
- Q3b 国際・広域観光課で一番やりがいを感じること
とは？
- A3b 台湾の観光客が増えること。
- Q4b 試験勉強について？
- A4b 法学部だったため、法律の基礎はあったが、試
験勉強自体は4月ごろから始めた。いろい
ろな人と話す機会があったことで、面接の際の
持ちネタにできたし、人との接し方を磨くこ
とができた。
- Q5b 民間との違いとは？
- A5b 失業がない、ボーナスが確実にある、年齢によ
って昇給するなど、安心でき、先を見据えるこ
とができること。
- Q6b これまでの異動について？
- A6b 市役所でどこの課に行きたいか一応の希望が
書ける。国際関係の仕事がしたくて、今は新潟
の観光に携わっていてやりたいことができて
いると感じている。人とのつながりが重要で
あると感じた。
- Q7b 民間と連携するとしたら？
- A7b 行政がやっているイベントに民間のノウハウ
を取り入れたい。



図 6 座談会の様子③



図 7 座談会の様子④



図 6 新潟市役所からのご紹介の様子



図 7 閉会あいさつの様子

3 まとめ

今回のイベントについては、授業日程のあわたしい中、企画・決行された事情もあって、運営主体となった学生スタッフは、互いのスケジュール調整もなかなかうまくいかず大分苦労していた様子であった。また、学生スタッフのうち1名が、急病のため当日キャンセルとなるなどの不測の事態もあった。しかしながら、当日のイベントは非常にスムーズに進められ、一般の参加学生の満足度も非常に高く、イベントとして、まずは成功したといっているのではないだろうか。

しかし重要なのは、このイベントから学生スタッフたちが一体何を成ることができたのかという点である。その点について外部の目からいえることは、参加学生ならびに学生スタッフへのアンケートの回答を基に、稿を改めて述べたいと思う。しかし、それに先立ち1点だけ指摘しておきたいことがある。

それは、現場の生身の声・姿を身近に感じたことを通じてのイメージの実体化が彼らに与えた影響は大きかったのではないかとということである。イメージが実体化することで、さらに将来の自身のイメージ（ビジョン）がより具体的に描かれ、現在のモチベーションを高め、リアルの行動へとつながる。

今回彼らは、イベントのテーマに「リアル」というキーワードを入れた。自分の知らない世界の「リアル」を知るという意味だったのだろう。しかし実は本イベントを通じた、彼らの今後の「リアル」な行動の変容こそが今回のイベントの骨子であったのではないだろうか。そしてその予兆はすでに現れ始めている。

4 学生スタッフからの一言

稲垣 実優（新潟大学創生学部2年）

「公務員のリアルを聴こう！」が始動してから、最初の内はイベントを企画するという事がどういふものか全くわからない状態に進めた為、やるべき事が見えていませんでした。また聞きたいことが決定してもそこからどうすれば良いのか、何を準備すれば良いのか、分からないことだらけでした。先方との連絡のやり取りの方法、運営の為の準備などあらゆる面で先生にお世話になりました。その際非常に丁寧に教えて頂いたので、学ぶ事が多かったです。

イベント当日が近づくにつれて、ミーティングの回数も増えた事で全体の様子も段々ハッキリと分かるようになり、やるべき事も自ら提案できるようになりました。事前準備も順調に進み、イベント当日の流れや前後の動きを何度もシミュレーションをしました。

しかし、私は体調不良で当日欠席をするという大きなミスをしてしまいました。今回のイベントの運営では悔しい面もありましたが、それも含めて自分が成長できたと感じました。

岡本 留奈（新潟大学創生学部2年）

私は以前もキャリア研究会のイベントの企画・運営に参加しましたが、前回とは違う役割分担や内容から成功できるかどうか、当日までとても不安でした。今回私はゲストの方との交渉役として初めて学外の方とメールのやり取りを行いました。非常に緊張しましたが、先生のご指導もあり、無事に役割を果たすことができました。

座談会では自分の聴きたいこと、参加学生が聴きたいことをゲストの方に聴くことができました。ゲストのお二人には丁寧に質問に答えていただき、公務員の新たな一面や実際に働くということについて理解を深めることができました。ただ今回の改善点としてグループトークをするまでに全体が打ち解けるのに時間がかかった点がありました。アイスブレイクの大切さを実感しました。しかし参加学生が活発に公務員の方と意見交換し不安を解消できた点はスタッフとして非常に嬉しく思いました。

今回のイベントでは目黒勝様、吉澤裕太様、相田みゆ紀様をはじめ、創生学生キャリア研究会、参加学生といった多くの方にご指導、ご協力いただきました。イベントが無事成功できたのも学生スタッフの力だけではなく、いろいろな方のサポートあってのものを実感し、感謝しています。ありがとうございます。

山岸 陽華（新潟大学創生学部2年）

私はこのキャリア研究会のイベントの企画・運営に参加させていただくのは今回で二回目だったのですが、前回の時より準備時間が短くイベントを成功させることができるのか不安も多かったです。当日スタッフの欠席もあり、さらに不安が大きくなりましたが、無事にイベントを成功させることができ、参加者に公務員のリアルについて知ってもらい、ゲストの方も創生学部に対して興味を持ってくださって、とても達成感がありました。

私自身もイベントに参加して学んだことは多く、公務員に対するイメージがガラッと変わりました。はじめは公務員と聞くと窓口の仕事や少しお堅いイメージを持っていましたが、ゲストの方がとても気さくに私たちに接して下さり、またお二人ともたくさんの部署を回られており、色々な経験をされていると感じました。

今回このイベントで、「公務員のリアル」を実際に聴いて、公務員の仕事に関する知識を増やすことができたし、自分の将来のイメージも具体化することができてとても良い経験となりました。

米澤 奈菜（新潟大学創生学部2年）

はじめに、今回の第3回キャリアイベント「公務員のリアルを聴こう」を実施するにあたってご協力いただいた、目黒勝様、吉澤裕太様、相田みゆ紀様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。並びに、

主催・後援の創生学生キャリア研究会、参加者学生の皆様にも御礼申し上げます。

私は、今回司会を務めさせていただきました。司会側から学生を見ていると、参加前と参加後に僅かながら表情に変化がでた学生が見受けられました。イベントを開催して良かったと率直に感じました。しかし、私達の伝えたい事が上手く伝わっていない様子の学生もいました。これは、前向きな反省点であると捉えています。イベントをするにあたって、参加者に何をもち帰ってもらいたいのかを更に追求すると、参加者のもっと有意義な時間を過ごすことができたのではないだろうかと思うことができました。私にとって、このイベント運営の経験は、良い経験となりました。今回のキャリアイベントを通して、実際にご活躍されている社会人の方とお話しすることで、一人でも多くの学生に自分のキャリアについて考えるきっかけになったのだしたら幸いです。ありがとうございます。